



親子で広報活動実施 ～大山ふるさと夏まつりに参加～



佐竹正洋2空佐（中央）と
城北地区父兄会会長 佐竹夫妻



広報ブース及び車両展示

北地域事務所（所長 池亀2等陸尉）は、平成27年8月22日から23日に板橋区ハッピーロード大山商店街で実施された大山ふるさと夏まつりにおいて、広報活動を実施した。

大山ふるさと夏まつりは、ハッピーロード大山商店街・山中通り睦会が主催し、東日本大震災の風評被害を受けている地域の支援のために農林水産省と連携して実施された「食べて応援しよう」運動の一環として開催されたイベントで、今年で5回目となる。地域特産品の販売が多数あるため、地元住民の方だけでなく、他の地域の方も多く来場した。

北地域事務所は、広報ブースを展開させ、災害派遣活動の写真パネル展示や制服の試着を実施し、さらに、第1普通科連隊から支援を受け、軽装甲機動車の展示を実施した。来場者は、特産品に舌鼓を打ちつつ、制服を試着し記念撮影を楽しんだり、軽装甲機動車を興味深く見学していた。来場者からは「本物の車両は迫力が凄い。別の車両も是非見てみたい。」等多数の声を頂いた。

また、板橋区募集相談員をはじめとする各協力会からチラシ及びティッシュ配布等支援を頂いた。中でも父兄会からは、城北地区父兄会会長 佐竹正紀氏及びご子息の佐竹正洋2空佐（現在：統合幕僚監部勤務）に友情出演ならぬ友情支援を頂き、共に広報活動を実施した。佐竹2空佐から「親子で広報活動する日が来るとは思わなかった。実際にやってみて、改めて広報の難しさを認識した。」との言葉を頂いた。

北地域事務所は、今後も各協力会と連携し、市民の皆様が自衛隊への理解を深めて貰える様、広報活動を実施していくとしている。

関係機関が連携し、災害に備え ～東京都・立川市合同総合防災訓練に参加～



救出救助活動訓練



関心を集めた洗濯セット

東京地方協力本部（本部長：梶原直樹 陸将補）は平成27年9月1日、地域住民の自主防災能力の充実、地域一体としての防災力向上及び関係機関の連携強化による災害対応力の向上を目的とし、国営昭和記念公園で実施された東京都・立川市合同総合防災訓練において展示ブースを開設した。

本訓練は、多摩地域を震源とするM7.3の地震により、家屋の倒壊や道路・鉄道など交通網の寸断、ライフラインの遮断が発生したとの想定で行われ、陸海空自衛隊、各自治体、指定公共機関など1000を超える機関や地域住民等約7,500人が参加した。

東京地本は、伊豆大島での土砂災害時や奥多摩で発生した豪雪被害時での災害救助活動等のパネルを掲示するとともに、第1師団の支援を得て、高機動車や偵察オートバイ、野外洗濯セット等の装備品を展示し、自衛隊の災害対処能力の一部を紹介した。特に、1時間の洗濯量・乾燥

量が作業服約40着分の性能を持つ野外洗濯セットは、訓練を見学していた地元の小学生の関心を集めていた。

展示ブースには森山東方総監が視察に訪れ、地本部員を激励された。また、展示した災害救助活動のパネルには、地域住民の方だけでなく消防団員も訪れ、興味深く見学していた。来場者からは「災害時に頼りになるのは自衛隊。危険を伴うので大変だと思うが、頑張ってください。」等多数のお言葉を頂いた。

本部長は、関係機関の展示ブース等を視察後、関係機関の長と共に救出救助活動訓練を視察し、今後の連携強化について確認した。

東京地本は、今後も同様の訓練を通じて、都民の防災意識の高揚に寄与するとともに、自衛隊の活動に対する理解の拡大を図っている。



展示ブースを興味深く見学する来場者

